

「ICT 活用家庭学習・授業連携シート」作成のポイント

ICT活用家庭学習・授業連携シート	
授業科目	年 月 日 曜日 学期
授業日	年 月 日 曜日 学期
授業時間	時 分
本時のねらい	①
本時の重点項目	②
本時の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の重視される項目(複数回答可)	
主体的な学び	対話的な学び
深い学び	
生徒の主な学習活動と予想される生徒の反応	指導者の指導・援助
事前家庭学習	④
授業	③・⑤
事後家庭学習	⑥



- ① **〇〇〇〇** をクリックすると、2ページ以降の詳細な説明(具体的な活用方法、活用ソフト等)を見ることができます。
リンクへのアクセス⇒左クリック
- ② **ポイント** は、授業展開を考える際の視点を示しています。
- ③ **おすすめ!** は、本研究で使用した活用ソフトとその効果を示しています。

1

①学習内容に応じて「本時のねらい」「本時の重点項目」を記述する。

本時のねらい	
本時の重点項目	

2

②「本時のねらい」に合わせ「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの観点から実現したい生徒の主な学びの姿を選択する。

本時の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の重視される項目(複数回答可)			<div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">実現したい生徒の主な学びの姿</div>
主体的な学び	対話的な学び	深い学び	
「主体的な学び」の観点から選択する。	「対話的な学び」の観点から選択する。	「深い学び」の観点から選択する。	

3

③「本時のねらい」を達成するため、授業における学習活動に合わせた型を授業の目的別分類表から選択する。

	生徒の主な学習活動と予想される生徒の反応 ねらいを達成するための授業での型を選択する。 【記入例】 1 生徒の主な学習活動 ⇒予想される生徒の反応 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">授業の目的別分類表</div>	指導者の指導・援助 どのようなツールを使って、取組データの共有をしたり、学習活動を指導したりするのかを記述する。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">取組データの共有例</div>
授 業		

4

④授業展開に応じた家庭学習の内容を考え、家庭学習での型を家庭学習の目的別分類表から選択する。

	生徒の主な学習活動と予想される生徒の反応 授業で行う学習活動(授業での型)の準備ができる家庭学習の型を選択する。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">家庭学習の目的別分類表</div>	指導者の指導・援助 どのようなツールを使って、家庭学習を設定・回収するのか、分析・整理を行うのかを記述する。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">事前家庭学習の設定事例</div>
事前 家庭 学習		

5

⑤家庭学習での取組データの活用方法を考える。

取組データの共有

共同編集

GW:血液成分についてプレゼン

・人に分かりやすく説明するためには、全体の流れを理解したうえで、自分が疑問を持った部分以外にも、ほかの人が疑問を持ちそうな部分はどこか考えて自分の言葉にできないといけないと思った。

取組データの共有例

共同編集の活用例

6

⑥事後家庭学習の設定を行う。

	生徒の主な学習活動と予想される生徒の反応 生徒が事前家庭学習と授業で学んだことを振り返ることができる内容を設定する。	指導者の指導・援助 どのようなツールを使って、家庭学習を設定・回収するのか、分析・整理を行うのかを記述する。
事後 家庭 学習		

事後家庭学習の設定事例

1

実現したい生徒の主な学びの姿の選択について

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考して問い続ける
見通しをもつ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先哲の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる

ポイント

本時のねらいを達成することにより実現したい生徒の学びの姿を選択します。

独立行政法人教職員支援機構の資料を基に作成

授業の目的別分類表からの型の選択について

ポイント 本時のねらいを達成するための学習活動に合わせ、目的欄を確認し、型を選択します。もしくは、実現したい主な学びの姿から選択した観点から、型を選択することもできます。選択した型の目的から学習内容に合わせた学習活動を設定し、連携シートの授業欄に記入します。

	既習事項確認型	取組データ活用型	資料活用型	再構築型
目的	生徒が新しい学習へ向かう土台づくりをする。	生徒の意見や考えを授業展開に反映させる。	個別最適な学びを行う。	学びを振り返り整理する。
メリット	指導者は、生徒の取組データを活用し、新しい学習へ向かう土台づくりをすることにより、深い学びにつなげる。	指導者は、生徒自身の考えや取組データを授業の中で取り上げる場面を作ることで、対話的な学びにつなげる。	指導者は、授業で使用した資料等(家庭学習や授業で活用した資料や協働で作成した取組データ)を、全てデジタル教材としてクラウドへ保存する。それを生徒が随時閲覧できるようにすることで生徒の主体的な学びにつなげる。	指導者は、生徒が自己の考えや知識・技能の再構築を行ったものと、他者や過去の取組データ等と比較ができるような場面設定を行うことで、さらに深い学びにつなげる。
	生徒は、事前家庭学習において自身の理解状況を確認し、授業で説明や補足を受けることで、復習を行い、新しい学習へ向かう土台づくりをすることができる。	新しい発見をしたり自己の考えと他者の考えを比較したりすることで、自己の考えを再構築することができる。	自身の学びの状況に合わせて、何度も確認したり、引用したりして自己の考えの根拠として活用することができる。	再構築した自己の考えを他者や過去の取組データ等と比較することができ、自己の学びの変容に気付くことができる。
期待できる「主体的・対話的な深い学び」とそのときの	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心を高める ・見通しをもつ ●対話的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・協働して課題解決する ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・思考して問い続ける ・知識・技能を習得する ・知識や技能を概念化する 	<ul style="list-style-type: none"> ●対話的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えを比較する ・思考を表現に置き換える ・協働して課題解決する ・共に考えを創り上げる ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・思考して問い続ける ・自分の考えを形成する ・自分の思いや考えと結び付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・振り返って次へつなげる ・粘り強く取り組む ●対話的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えを比較する ・共に考えを創り上げる ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・思考して問い続ける ・知識・技能を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ●対話的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えを比較する ・多様な手段で説明する ・思考を表現に置き換える ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・思考して問い続ける ・知識や技能を概念化する ・自分の考えを形成する ・新たなものを創り上げる

家庭学習の目的別分類表からの型の選択について

ポイント 授業での学習活動をするために必要な準備ができるよう、目的欄を確認し、型を選択します。もしくは、実現したい主な学びの姿から選択した観点から型を選択することもできます。選択した型の目的から学習内容に合わせた学習活動を設定し、連携シートの事前・事後家庭学習欄に記入します。

	レディネス型	思考アウトプット型	情報収集型	再構築型
目的	新しい学習に入る際に理解しておくべき既習事項について、生徒自身が理解状況を確認する。	生徒がこれまでの学びの成果を自覚する。	新しく学習していく中で必要な情報を収集する。	事前家庭学習と授業での学びを整理する。
メリット	生徒の取組データを事前に確認し、生徒の理解状況を知ることで授業において個々の生徒のつまずきにアプローチすることができる。	生徒の取組データから事前に生徒の考えの傾向を分析・整理し、発問や対話の設定を行うことができる。	新しい学習に進むために必要な情報収集を家庭学習に設定することで、生徒が授業の中で学習内容をより深める場面設定ができる。	生徒が学んだことを振り返り、考えを再構築できる家庭学習を設定し、クラウドで回収することで、生徒の学びの定着や変容、本時の目標が達成できたかを見取ることができる。
	事前に既習事項を確認することで、授業で新しい知識を習得するための土台ができる。授業で補足を行うことで新しい学習へ円滑に進むことができる。	事前に一人で自己の考えと向き合い、授業前に自己の考えを選択・記述することで、自身の変容を感じられるようになる。	新たな情報と向き合うことで自己の考えや知識に根拠をもつことができる。	事前家庭学習や授業での学びを振り返ることにより、自己の学びを自覚したり、再構築したりできるようになる。
期待できる「主体的・対話的な深い学び」とそのときの	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心を高める ・見通しをもつ ・自分と結び付ける ・粘り強く取り組む ●対話的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えを比較する ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く取り組む ・振り返って次へつなげる ・自分と結び付ける ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・思考して問い続ける ・知識・技能を活用する ・自分の考えを形成する 	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心を高める ・見通しをもつ ・自分と結び付ける ●対話的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報を収集する ・先哲の考え方を手掛かりとする ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を習得する ・自分の考えを形成する 	<ul style="list-style-type: none"> ●対話的な学び <ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えを比較する ・思考を表現に置き換える ・先哲の考え方を手掛かりとする ●深い学び <ul style="list-style-type: none"> ・思考して問い続ける

体液とその働き (事前学習)

気温が変化した場合に、私たちの体はどんな反応をするのでしょうか。またそれは何のために、どんな仕組みでおこるのでしょうか。

3. 暑さや寒さに対して、私たちの体はどんな反応をしますか。また、それは何のために起こりますか。5つ以上挙げてください。例) 暑いとき汗をかく・・・気化熱で体温を下げるため*

回答を入力してください

既習事項の理解状況確認のための問い

4. もしも、暑さや寒さに対する反応ができなければ、生物の体はどうなってしまうと思いますか。*

回答を入力してください

本時の目標につなげる問い

5. 血液について、知っていることを自由に記述してください。*

回答を入力してください

既習事項の理解状況確認のための問い

送信

ポイント

家庭学習の型の目的を達成できるよう設定します。
授業において学習活動を行うための準備ができる問いを設定します。

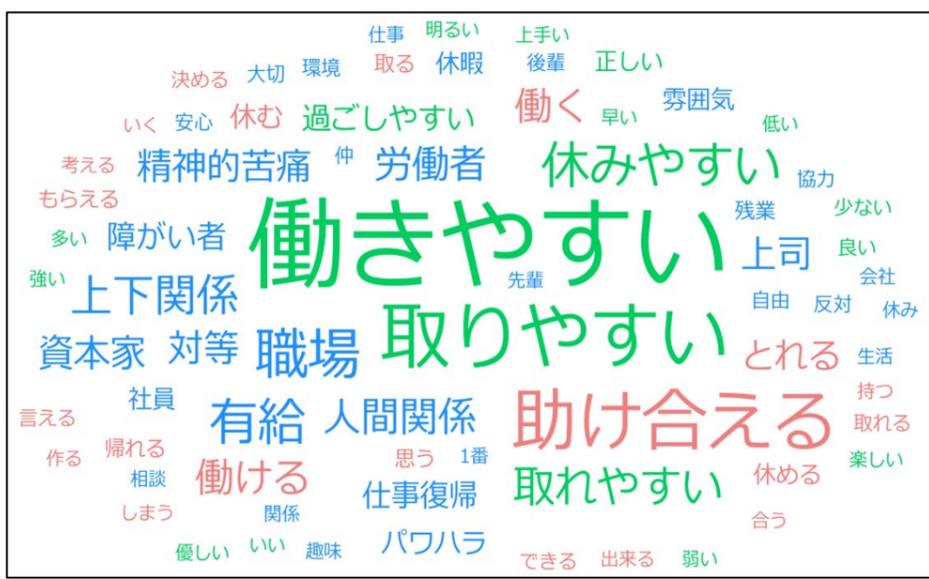
おすすめ!

Microsoft Forms

Microsoft Formsを活用して、事前家庭学習の設定・回収を行うことで、生徒の取組データを一覧で確認することができます。また、デジタルデータのため、分析・整理もしやすく編集が可能のため、生徒の意見を授業展開に反映させることができます。

ポイント

家庭学習の取組データを分析・整理し、授業で全体共有します。その後、生徒の理解状況に合わせて補足や説明を加えたり、生徒の考えを基に対話を行ったりする授業展開を設定します。そうすることで既習事項の知識の偏りをならし、新しい学習へ向かう土台づくりができたり、自己の考えをアウトプットしたりしたものを他者と比較し、対話を経て結論を導きだせるようにします。



GW: 血液成分についてプレゼン

・人に分かりやすく説明するためには、全体の流れを理解したうえで、自分が疑問を持った部分以外にも、ほかの人が疑問を持ちそうな部分はどこか考えて自分の言葉にできないといけないなと思った。

おすすめ!

Microsoft Forms → **AIテキストマイニング**

事前家庭学習で「Microsoft Forms」を活用し、家庭学習の設定を行います。生徒が記述した取組データを「AIテキストマイニング」でキーワード抽出を行います。テキストマイニングは、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を表しています。生徒全体の記述を分析する際に、頻出度が高く、特徴的であるキーワードが大きく示されるため、視覚的に生徒の意見や考えの大まかな傾向を見ることができます。

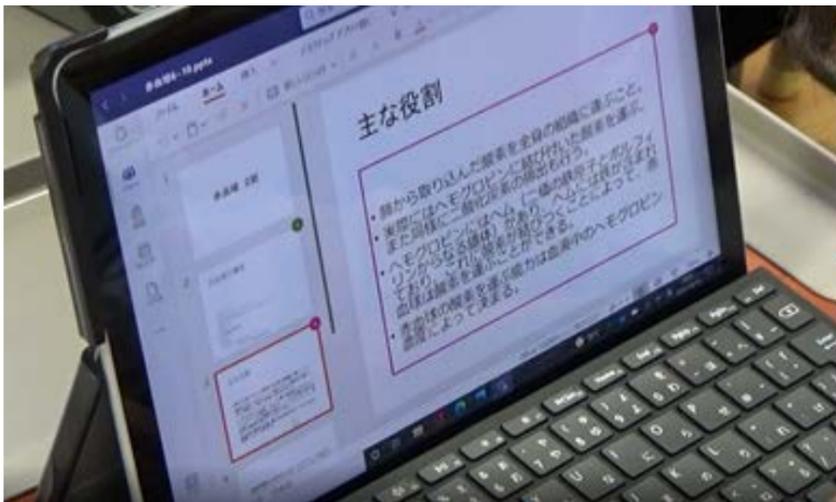
おすすめ!

Microsoft Forms → **Microsoft Power Point**

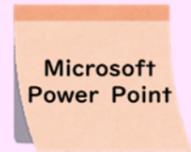
事前家庭学習で「Microsoft Forms」を活用し、家庭学習の設定を行います。指導者が学習のねらいに合わせて、その生徒の取組データの分析・整理を行い、「Microsoft Power Point」にまとめます。指導者が授業展開や生徒の学習状況に合わせて作成することができるため、よりねらいに合わせた導入を行うことができます。

ポイント

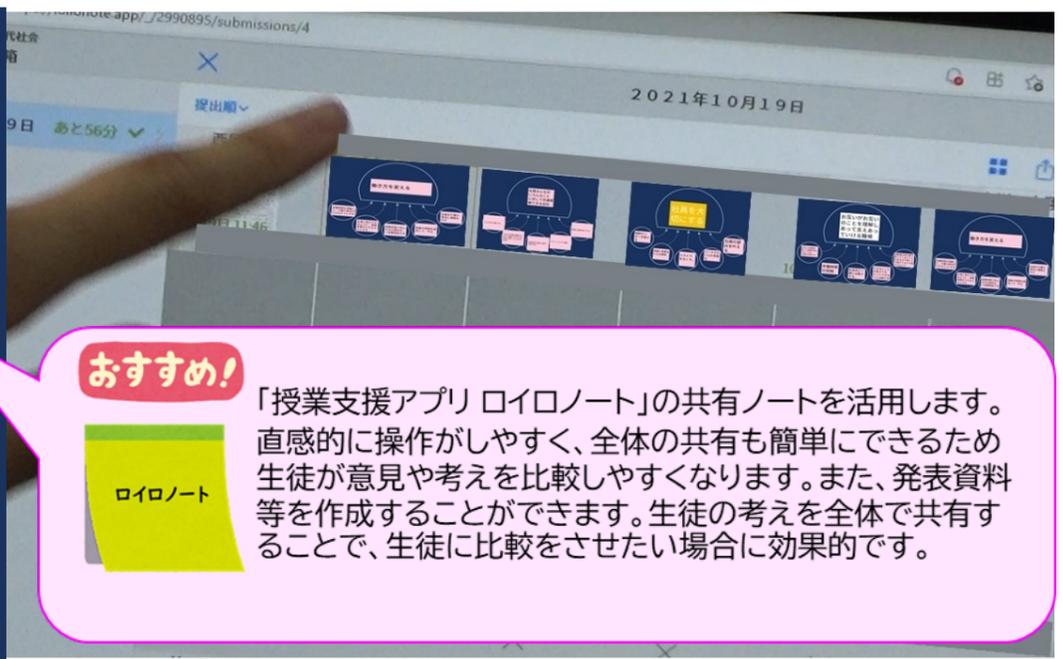
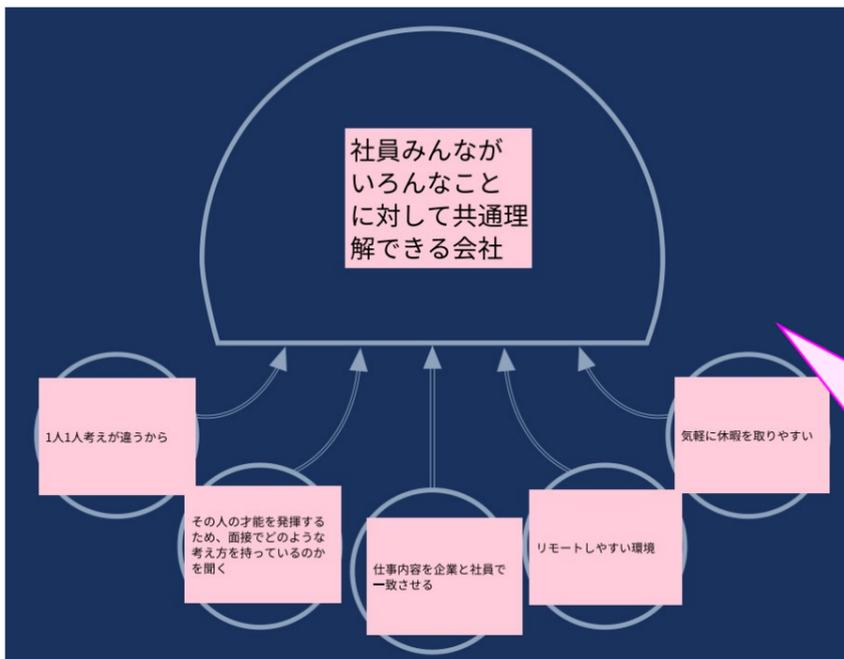
共同編集を行う際は、そのデータをクラウドで共有し、生徒が対話を通して共同編集できる授業展開を考えます。生徒同士の意見や考えを視覚的に表すことで、対話をしながらまとめたり、理解したりすることができます。



おすすめ!



「Microsoft Power Point」をクラウドで共有することで、生徒はいつでもどこでも共同で同じデータを編集することができます。また、アニメーション等も共同でつけることができるので、発表資料等を作成することができます。多くの情報をまとめたり、情報量の多い発表資料を作ったりする場合に効果的です。



おすすめ!



「授業支援アプリ ロイロノート」の共有ノートを活用します。直感的に操作がしやすく、全体の共有も簡単にできるため生徒が意見や考えを比較しやすくなります。また、発表資料等を作成することができます。生徒の考えを全体で共有することで、生徒に比較をさせたい場合に効果的です。

ポイント

事後家庭学習では、事前家庭学習と授業を受け、本時の目標を生徒が自分の言葉で記述できる内容を設定します。そうすることで、生徒が本時の目標を達成できたかを見取ることができます。また、クラウドを用いて回答・回収を行うことで、指導者は生徒の学習の状況を分析・整理し、次時の授業展開に反映させることができます。

学習の記録【6. 体液とその働き】

SS生物で学んだことを記録していこう。

3. 授業の日付を選択してください。* **授業日を確認するための問い**

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)

4. 授業の内容を選択してください。*

- 【第1回】 ホメオスタシスとは
- 【第2回】 酸素解離曲線
- 【第3回】 血液凝固のしくみ

授業内容を選択するための問い

5. 授業で学んだことや感想を入力してください。*

回答を入力してください

学んだことや感想を入力する問い

送信

おすすめ!



「Microsoft Forms」で回収する場合、生徒の端末には入力したデータが残らないため、生徒の個人端末にポートフォリオとして記録ができるよう、「Microsoft Word」のシートを個人端末に事前配付しておきます。そうすることで、生徒が学習内容をいつでもどこでも振り返ることができるようになります。